

「ぼく、いやかった」

3歳児のMくんは、元気がありません。

先生、あのね。ぼく何もしてないがにNちゃんが押してた。

それは嫌だったね。Nちゃんに『やめて』って言った？

…言っていない。

Nちゃんは、Mくんが嫌だったことを言わないと、わからんかもしれんね。Mくんの思っていること、言ってみようか？

…うん。

ふざけて押したNちゃんは驚いた様子です。

ぼくのこと押したら嫌かった…。

……ごめんね。

ドキドキ

…いいよ。

Mくん、ちゃんと伝えて良かったね。NちゃんもMくんの気持ちわかってくれたね。

うん！

思ったことを、自分の言葉で伝えることが出来、Mくんははれはれとした表情を見せてくれました。

自分が思っていることを、言葉で表現することが出来るよう援助していきたいと思っています。

「しゃぼんだま、いっぱい！」

4、5歳児の子どもたちが園庭でしゃぼん玉あそびを楽しんでいました。

わーい！空まで飛んだ！



部屋の中にいた3歳児の子どもたちが窓の外のしゃぼん玉を見つけました。

あれ？しゃぼん玉？

ぼくたちもしたい！



3歳児の子どもたちがしゃぼん玉あそびを始めると隣の部屋の2歳児の子どもたちも、しゃぼん玉を見つけて大はしゃぎです。

わあ！



2歳児の子どもたちも仲間入りです。そして…

ベランダでおんでいる0、1歳児の子どもたちにみんなでしゃぼん玉を見せてあげました。キャッ！キャッ！

アーっ！

見てっよ。

ほら！大きいよ。

0ちゃんの所にいったよ。



しゃぼん玉と一緒に、子ども同士のかかわりが広がっていく場面から、小さい子のことを思いやるやさしさが伝わってきました。